



議会だより

No. 157

発行 2018年3月

第4回定例会議決結果一覧
 議会の動き
 議員表彰
 議員・職員研修会
 一般質問ダイジェスト
 キラリいぜなっ子 ザ・学生II

②
 ③
 ③
 ③
 ④～⑦
 ⑧



伊是名島のおいしいモズクを皆さまへ

モズク操業祈願祭



伊是名島早摘みモズクは
 イッパーまーさいびんどお〜!





平成29年第4回伊是名村議会定例会議決結果一覧

平成29年第4回伊是名村議会定例会は、12月4日から5日までの2日間で開催された。本定例会に提案された議案は14件で、うち同意1件、発議1件、陳情1件で、一般質問には2人の議員が登壇し村政について質問した。審議の結果は次のとおりです。

議案番号	件名	議案等の概要	議決の結果
議案第43号	伊是名村職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	伊是名村職員の給与改定に伴う条例の一部改正	原案可決
議案第44号	伊是名村表彰条例の一部を改正する条例	伊是名村表彰条例改定に伴う条例の一部改正	原案可決
議案第45号	平成29年度伊是名村一般会計補正予算(第4号)	歳入歳出それぞれ124,379千円を追加し、総額をそれぞれ2,686,388千円とする。	原案可決
議案第46号	平成29年度伊是名村国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	歳入歳出それぞれ18,860千円を追加し、総額をそれぞれ286,900千円とする。	原案可決
議案第47号	平成29年度伊是名村後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	歳入歳出それぞれ21千円を追加し、総額をそれぞれ12,383千円とする。	原案可決
議案第48号	平成29年度伊是名村簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)	歳入歳出それぞれ4,090千円を追加し、総額をそれぞれ60,150千円とする。	原案可決
議案第49号	平成29年度伊是名村農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)	歳入歳出それぞれ440千円を追加し、総額をそれぞれ50,140千円とする。	原案可決
議案第50号	平成29年度伊是名村港湾整備事業特別会計補正予算(第1号)	歳入歳出それぞれ3,762千円を追加し、総額をそれぞれ13,100千円とする。	原案可決
議案第51号	平成29年度伊是名村船舶運航事業特別会計補正予算(第3号)	歳入歳出それぞれ4,989千円を追加し、総額をそれぞれ418,197千円とする。	原案可決
議案第52号	平成29年度伊是名村育英事業特別会計補正予算(第1号)	歳入歳出それぞれ905千円を追加し、総額をそれぞれ8,265千円とする。	原案可決
議案第53号	辺地総合整備計画の変更について	辺地に係る総合整備計画の一部変更	原案可決
同意第9号	教育委員会委員の任命について	前里愼一氏の任命について	同意
発議第4号	伊是名村議会会議規則の一部を改正する規則	配偶者の出産補助での欠席届け出に対する規則の一部改正	原案可決
陳情第4号	平成30年度福祉施策・予算に対する要請書	村への福祉施策・予算に対する要請書の提出	採 択

議会の動き

平成29年12月～平成30年2月

- 12月 4日(月) 第4回定例会(～5日(火))
- 12日(火) 第25回伊是名村生涯学習発表会
伊是名幼稚園、伊是名小学校、伊是名中学校、
産業支援センター
- 18日(月) 北大東村行政視察・懇親会 伊是名村
- 22日(金) 伊是名漁協「創立65周年記念式典及び祝賀
会」 産業支援センター
- 1月 1日(月) 平成30年成人式・祝賀会 産業支援センター
- 5日(金) 平成30年消防団出初め式 産業支援センター
- 9日(火) 平成30年モズク操業祈願祭
伊是名モズク加工場
- 10日(水) 伊平屋村「新春の集い」
伊平屋村産業連携拠点センター
- 11日(木) 伊是名村「新春の集い」 産業支援センター
- 18日(木) 国・県出先機関の長及び関係団体等と北部市
町村との新年会(議長・副議長) 北部会館
- 26日(金) 第38回伊是名村文化財防火訓練

- 国指定重要文化財「銘苅家住宅」
- 28日(日) 平成30年伊是名村郷友会新年会
マリエールオークパイン那覇
- 2月 1日(木) 町村議会広報研修会(広報委員・職員)
自治会館
- 3日(土) 第2回伊是名尚円王マラソン大会
臨海ふれあい公園グラウンド
- 20日(火) 県町村議会議長会
第47回定期総会(議長・局長) 自治会館
- 21日(水) 県離島振興市町村議会議長会
第9回定期総会及び研修会 自治会館
- 22日(木) 町村議会議員・事務局職員研修会
南風原町立中央公民館
- 23日(金) 老人短期入所介護施設 落成式・祝賀会
デイサービスセンター チチン園
- 27日(火) 第24回少年の翼報告会 伊是名小学校

議員表彰

おめでとうございます

町村議会議員として15年以上在職し、議会活動等を通じ地方自治の進展のために大きな役割を果たしたということで、全国町村議会議長会から前川清議長、前田清副議長、末吉實好議員、宮城安志議員の4人が表彰され、2月20日の沖縄県町村議会議長会定期総会において伝達されました。誠にありがとうございます。今後のますますのご活躍に期待がかかります。



末吉實好議員

宮城安志議員

議員・職員研修会

2月21日(水)～23日(金)の2泊3日の日程で研修会に参加した。

初日の21日は那覇市において、沖縄県離島振興市町村議会議長会研修会があり、読売新聞東京本社編集委員 青山彰久氏による「地域の価値 離島のみらい」と題した講演が行われた。

22日は南風原町において、町村議会議員・事務局職員研修会があり、沖縄県企画部市町村課長 松永亨氏による「市町村行財税政等の状況」と題した講演、休憩後、沖縄県選挙管理委員会選挙班長 小橋川健康氏による「寄付の禁止 政治活動と選挙運動について」、沖縄県保健医療部国民健康保険課長 名城政広氏による「国民健康保険新制度の仕組みと課題について」と題した講演が行われた。





Q1 村道屋佐線道路改良整備について

Q2 村内遊具場の設置について

Q3 子ども議会体験学習授業について



まえだ きよし 議員
前田 清



視察の様子（字内花区屋佐線）

Q1 前田清議員

平成5年度に道路整備されながら、既存の道路の路面排水を処理する排水側溝が路線中間までしか整備されていない。この路線全体が急な下り坂縦断勾配であるため、雨が降るときはその路線中間より溢れ出し、また路線両サイドの畑から土砂や砂利などが流れ出ることが危惧される。排水側溝の整備ができないか。

A 前田政義村長

村道屋佐線は内花配水

池側を起点とし、崎原線側を終点とする村道で平成4年から平成6年度にかけて農道として整備され、その後村道へと認定替えされた路線である。集中豪雨時には既設の側溝及び横断溝の規格が場所によっては狭隘である上、枯葉やほ場からの土砂の流出により側溝が詰まり、水捌けを悪くしているため、水が溢れ出る要因になっている。また、中間地点から終点側までの本路線の両サイドのほ場については、それぞれ

の道路の反対側へ勾配が取られ、雨水対策を行うようになっているが、ところどころ路面よりもほ場側が上がっているため、土砂等が流出する。よって、再度現場を検証し、適切な対策が図られるよう、関係課で協議の上、検討していく。

A 兼元清永 建設環境課長

雨水の溢れる原因となっ

ている道路上の横断溝やほ場沿いの側溝内に溜まっている土砂や枯葉などの除去を行った上で、経過を見て最善な改善策を検討したい。また、ほ場からの土砂の流出については、農林水産課、土地改良区等とその対策について協議していきたい。

Q 前田清議員

確かに畑側に接している排水側溝は土砂や枯葉等で内部の詰まりも一因はあるかと思うが、梅雨の時期や台風などで大雨になった場合に、急激な雨量になると排水機能を満たしていない。その要因は元々雨量が処理できなくて、畑側から逆に道路側に向かってくるもので、畑の縦断勾配による排水は、道路とは逆に流れる構造だが、それ以上に水嵩が上がって道路の方へ逆流している傾向だと考えられるのではないか。道路排水側溝そのもの自体、機能・容量が足りないので、機能を拡張するか、あるいは新たに道路排水側溝を増設するなど

の解決策しかないと考えているが、いま一度、調査だけでなく、考え方も含めて今後どのような取り組みをするのか。

A 兼元清永建設環境課長

今現在、どのような方法が適切なのかは答えられない。先程、視察中に議員の皆さんからあつた指摘や助言も参考にしながら今後取り組んでまいりたい。

Q 前田清議員

今回の質問内容については10年ほど前から主管課に現状について話をしてきたつもりだったが、一向に対応する状況が見られないので、質問通告した。この件は早めに取り組みでいただきたい。

Q2 前田清議員

村内の各集落にある農村公園及びその他の公園施設に整備されていた遊具は、老朽化に伴い撤去された状況だが、最近では子どもたちの遊ぶ遊具がなく、子どもを持つ親に

とつては不便さを大変痛感している。そこで村内に中央遊具場を設けてはどうか。また、可能ならば耐久性のある遊具の整備ができないか。

A 前田政義村長

現状確かに本村では、充実した遊具の整備された公園はない。平成28年3月定例会で潮平そのみ議員から遊具の整備についてご質問があったが、

村ではその後、再整備の考え方のもとに臨海施設機能強化基本計画を作成している。その計画で、臨海ふれあい公園の遊具の整備も盛り込まれており、その基本計画が早めに推進でき

るよう取り組む。

Q 前田清議員

小さな子を預かる保護者の意見を聞くと、村の中央の場所に遊具場を設けることや、その辺りでの整備を希望しているというものだった。村の中央での施設設置であれば、どの集落から行きやすく、また保育園等々の帰りがけに子どもたち

を遊ばせて、そのまま帰宅できるなど、利便性と利用価値があるとのことだった。村内視察で産業支援センター東側の敷地が空いていることを調査したが、空いている村有地の有効活用として利用する意思がないか。保育園も近く、帰りがけに利用しやすい場所であり、良い場所ではないか。

A 神山利和企画政策課長

各集落の農村公園等を確認したところ、老朽化による危険物として撤去されるなど、充実した遊具の整備はされていない。子どもを持つ親にとつては不便を感じているとのこと

で、子どもたちのために親子の触れ合う場として遊具の充実した公園は必要だと考えている。整備するにあたり、安全面、責任面を考慮し、臨海ふれあい公園機能強化基本計画において再整備計画を進めている。村としては、その計画で整備する予定だが、遊具の整備ができる補助金等が他にないか、各課

関係機関と連携し、調査をして、今後実現できるよう努めている。先程、視察した場所は、村として今後の整備計画構想があるので、その辺について、調整しながら検討したい。

Q3 前田清議員

昨年12月の第4回定例会において、子ども議会体験学習授業について一般質問を行った。この件についてその後の進捗を伺いたい。

A 前田政義村長

平成28年12月定例会において、子ども議会体験学習についてご質問があった。村の将来を担う子どもたちが議会行

政に興味、関心をもつことは非常に意義深いものがあり、関係者と連携し、積極的に取り組んでいきたいと答弁した。今後実現に向けて努力したい。

A 名嘉正教育長

子ども議会の実施については、教育計画の内容と小学校、中学校と調整して検討して

いきたいと答弁した。また、小学校で子ども議会に似たような取り組みとして体験交流授業の中で、子どもたちが島の将来について考え、話し合い、提言書を作成し会議に村長を招待して提言書を手渡すという取り組みを行っていた。その後、学校側と授業時数の問題、中学校であれば、社会の公民の授業での

取り扱い、さらに例えば子ども議会を実施した場合は、この前後の指導等は社会の授業で取り扱えるか。さらに総合学習などで、そういった授業の取

り扱いが可能かどうかを現在、学校側と調整している。さらに他市町村では、子ども議会などを殆どの市町村で実施された経験があるかと思う。それも踏まえて、教育効果がどれほどあるのか。また、現在関連している

社会の授業と勘案した場合どうなるかというところを検討しているところである。学校側とは実施する方向で現在、取り組みを協議している。

Q 前田清議員

学校側と協議をしながら進めていくことは十分理解しているが、教育行政のトップである教育長が教育計画にこの方針を取り入れたいのだと強く主張すれば、自ずと周りはそのように計画に反映していくも

のではないか。そういう取り組みがされていないことで進捗しなかつたのではないか。現在の学校での授業において日本の社会

制度の仕組みなどについて、教育項目に組み込まれている。実際に、実務の体験を取り入れ、授業の一環として組み込んでい

ければ、子どもたちの将来に向けて、社会制度のあり方の基本を学ぶ機会となり、それを認識して社会を歩んでいけるのではないか。速やかに教育長の采配で取り入れるべきではないか。

A 名嘉正教育長

学校側と調整して、次年度の教育計画に盛り込めるよう調整していきたい。

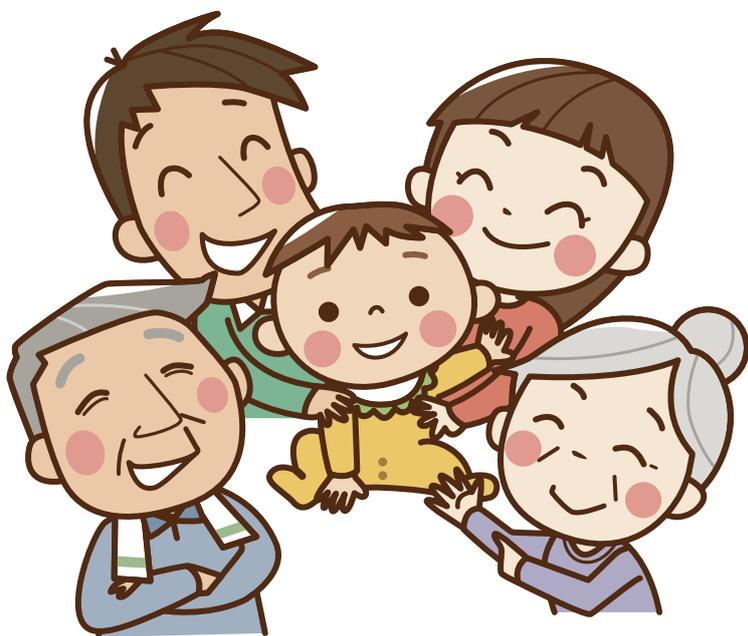


Q1 農業集落排水事業の 取り組みについて



しおひら 潮平そのみ 議員

Q2 村婦人会再発足について



Q1 潮平そのみ議員

農業集落排水事業への未接続問題について平成27年6月回定例会で質問したが、その後の取り組みを伺いたい。

集排処理場が整備から二十

数年経過し、老朽化や劣化によ

り再編整備が進んでいるが、依

然として集落排水施設に接続

されていない世帯がある。

以前の質問時に「未接続が何

件あるか調査を進めたい」との

答弁だったが、その後の接続調

査は進んでいるのか。また、接続

していくように啓蒙活動を行っ

ているのか。

A 前田政義村長

村では昭和57年度に農

業基盤総合整備事業で内花区

の施設整備に着手し、その後各

集落ごとに施設を整備し、平成

7年度に整備完了した。整備完

了後の供用については、施設の

維持管理を業務委託し、農村

環境の維持と公共用水域の水

質保全を担い、住みよい生活環

境づくりに寄与している。

しかし、潮平議員が平成27年

6月定例会で集落排水事業に

ついて取り上げ、未接続家庭の

調査をして集落排水への接続勧

誘の啓蒙活動を実施していく

と課長答弁したが、調査の報告

や取り組みの報告が遅れたこ

とを深くお詫び申し上げます。

A 諸見直也農林水産課長

平成28年1月より平成29年2月の期間において、3回

に分けて調査を実施した。その

調査結果が伊是名地区におい

て対象戸数142件、うち未接

続7件、93・7%、次に勢理客

地区が対象戸数70件、うち未

接続が8件、82・9%、諸見地

区、対象戸数179件、うち未

接続が41件、45・4%、仲田地

区、対象戸数193件、うち未

接続12件、92・7%、内花地区、

対象戸数54件、うち未接続3

件、90・7%となっている。村全

体では、対象戸数が638件、う

ち未接続71件、合計で86・8%

となっている。未接続箇所に対

する啓蒙活動は、広報等を活用

した周知を強化し、早期の実現

を促していきたい。

Q 潮平そのみ議員

村全体の現在住んでいる家屋で86・8%は、接続率として良い数字だと思う。

以前未接続問題について、住

民福祉課長は、民生委員の方と

いろいろ相談しながら啓蒙活

動に力を入れていくと答弁し

たが、その後の状況はどうなっ

ているのか。

A 伊禮正徳住民福祉課長

確かに前回、議員のご指摘により、民生委員の方と連携を取りながら啓蒙活動をした

いと答弁した。その後、主管課の農林水産課で未接続の調査を実施している間に民生委員には情報提供を行い、議会だよりや議会の議論の内容等を協議している。つい最近も会議を行い、この件に関して再度認識の確認を行ったが、未接続問題の主な原因について、村内の約70件余りの方々の状況を見ると、高齢者の方、経済的な問題があげられる。民生委員には福祉資金制度等の融資制度があり、その手続きは、社会福祉協議会において実施していると報告している。その制度活用について、農林水産課の啓蒙活動と同時に、チラシ等で周知をする際、今後、調整しながら進めていきたいと考えている。



潮平そのみ議員

いま村の事業として集落排水施設の統合、更新が進んでおり伊是名区と勢理客区の統合を行う西部地区から工事が始まっている。東部地区につい

ては、今後徐々に計画となるが、こういう大きな事業を導入するには、住生活環境、衛生面を考慮し、やはり未接続家庭の解消が必要である。高齢者が接続工事をするのは負担があると認識するが、周辺環境の向上のため是非とも行政主導で良い施策を展開し、未接続解消の検討を進めていただきたい。



潮平そのみ議員

伊是名村には、村の婦人会組織がない。女性の参画、女性の地位向上のため、村婦人会が必要と思うが再発足する考えはないか。



前田政義村長

本村婦人会は昭和34年に発足し、平成8年までの46年間、女性の地位向上発展、並びに伊是名村の諸行事等に多大な貢献をしてきた。しかし平成8年5月11日に各支部より役員等のなり手がいないなどの理由で村婦人会会長宛て婦人会

の休会嘆願書が提出され、その後、休会としている状態にある。村としては、その後、幾度となく再発足の打診もしたが、思いは届いていない。北部地区で婦人会組織がないのは、伊是名村だけであり、大変残念に思っている。11月23日に北部地区連合婦人会の理事研修会が本村で開催され、私も懇親会に参加したが、その中でも再発足してほしいとの意見が地区役員からもあつた。その際、本村から参加をした数名の方からも積極的な意見があり、村としては、その参加者の方々を中心にして、今後、意見交換をし、再発足に向けて検討してまいりたい。



潮平そのみ議員

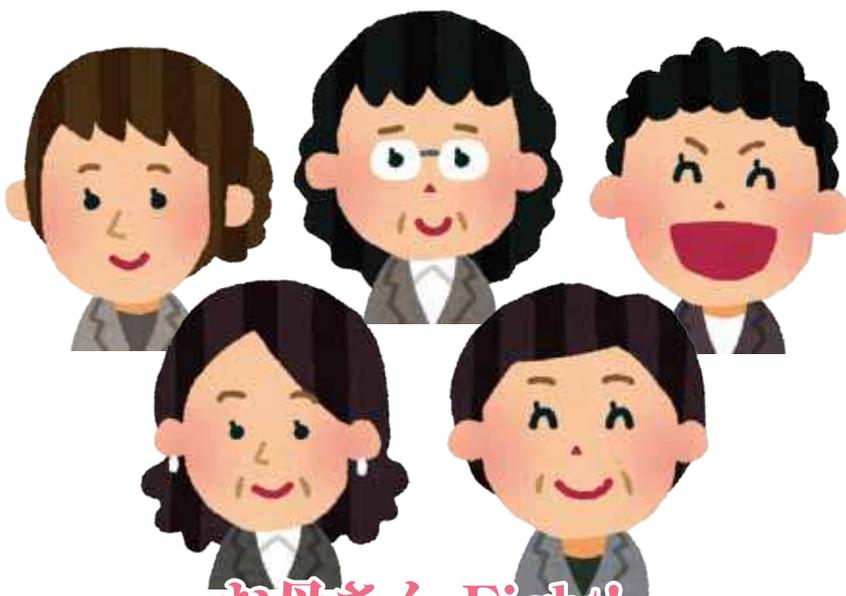
婦人会組織運営について、村の本会を再発足するためには、各支部、集落単位の婦人会を発足する必要がある。この件に関して各区长を中心に話し合いが必要だと考えるが、担当部署において婦人会組織の



名嘉正教育長

再発足に向け、各区长と協議を行う考えがあるのか。

について各区长と有識者の皆様、さらには個別に活動している婦人の皆様と意見交換を行いながら村の婦人会組織が再発足できるように調整を進めて参りたい。



お母さん Fight!

キラリ★
いぜなっ子
ザ・学生Ⅱ
vol.14

キラリ★いぜなっ子 ザ・学生は、近隣学校単位で掲載することになりました。今回のキラリ★いぜなっ子は沖縄県立那覇工業高等学校・那覇商業高等学校に通う皆さんです。

沖縄県立那覇工業高等学校
(3年生)

野村 昌志くん
(諸見)



野村昌志くん

沖縄県立那覇商業高等学校
(3年生)

伊禮 琉花さん
(伊是名)



伊 琉花さん

「小さい頃は島のフリーで仕事をしたいと思っていましたが、高校進学の際、兄にすすめられ、卒業後は就職するつもりで、那覇工業高校に決めましたとはきはきと話す昌志くん。

「那覇工業では資格取得のため、学校がバクアプしてくれれます。僕も計算技術認定やパソコン検定、アーク溶接、ガス溶接の資格を持っています」と学校

側の支援や協力に感謝している様子でした。

高校生活の思い出について聞いてみると「クラスは男子ばかりなのでなじみやすかったと思います。やはり3年時の体育祭での昼運びリレーが思い出に残っています。部活はせずにアルバイトを一生懸命やりました。同じスパーで3年近く働いています。いい社会勉強になったと思っています」と話してくれました。

昌志くんは4月から沖縄ココロラボトリングで働くことがきまっています。

「製造業に興味があったので、昨年8月頃に友人と一緒に工場見学に伺って、試験を受けようと思いましたが、他にも一社内定をいただいたのですが、先に内定をいただいていたココロラボさんに決めました。製造部門での採用なので機械のメンテナンスなどやってみたくて」と話していました。

伊是名の後輩へアドバイスを求めると「高校を選ぶ時、卒業後の就職を考えているなら那覇工業はおすすめです。資格取得のために学校側のバクアプが大きいからです。それから自分に合った高校を選んでほしいです」と話してくれました。

那覇商業を選んだ理由を訊ねると「進学する際は就職しようと思っていたので、採用に有利になるよう資格を取りたくて選びました」と琉花さん。

学校生活について聞いてみると「3年間ソフトテニスに熱中していました。7時の朝練のため、糸満市の自宅を5時に出なければならず、きつかったのですが、そのきつい練習のおかげで高2の高校総体では団体で準優勝でした。那

覇商では文化祭の代わりにドキドキスポ(トドキスポ)という行事があって、クラスごとに商品を入れて販売し、その売上を競うものです。12月のドキスポで私のクラスは全学年中2位でした。楽しく貴重な経験ができました」と笑顔で話してくれました。

「那覇商で情報処理や簿記の検定を受け資格も取りましたが、入学当初と変わってもっと勉強してから就職したいと思って、4月からはウエディングプランナーを養成する専門学校に進学します」と卒業後の進路について説明してくれました。

伊是名の後輩へのメッセージをお願いと、高校では部活をした方がいいと思います。大部分の人はそういう運動などは高校で終わってしまうので、いい高校生活だったと思えるような熱中できる何かを見つけてほしい」と終始笑顔で話してくれました。

編集
後記

村民の皆様、こんにちは。年も明けて、村の基幹産業であるモズク収穫、さとうきび刈りと忙しい季節となりました。

私も議員・広報委員として早や4年目を迎え、議会運営、議会の活動、一般質問等、皆様に楽しく読んでいただける広報誌作りに努めて

きました。

これからも興味の持てる議会広報誌を編集していきたいと思いますので、何か意見がありましたら、広報委員会若しくは議会事務局までご連絡下さい。

広報調査特別委員会副委員長 潮平そのみ